

第1回飯田市社会福祉審議会 高齢者福祉分科会 議事録（概要）

■ 開催日時 令和4年7月4日（月） 14時55分～15時47分

■ 開催場所 飯田市勤労者福祉センター3階 第3研修室

■ 出席委員 15名

氏名	出欠	氏名	出欠
何原 真弓	○	塚平 俊久	×
熊谷 兼富	○	遠山 清美	×
小林 弘	○	平島 まゆみ	○
酒井 満由美	○	松村 和代	○
幸森 信良	○	松村 剛志	×
篠田 守	○	松村 秀樹	×
高島 孝子	○	森 一美	○
多田 雅幸	○	矢澤 秀宣	○
田中 光子	○	山田 達朗	○
棚田 淳史	○		

■ 出席事務局 7名

氏名	部・課・係名	備考
乾 徳彦	長寿支援課長	
飯島 ゆみ子	長寿支援課長補佐兼介護認定支援係長	
下島 剛	長寿支援課長補佐兼長寿支援係長	
原田 聡昭	長寿支援課 機能回復担当専門技査	
福沢 紀美江	長寿支援課 基幹包括支援センター係長	
近藤 圭三	長寿支援課 介護保険係長	
久保田 美貴子	長寿支援課 介護保険係	

## 1 開会

### 2 課長挨拶

皆様こんにちは。本来、健康福祉部長がここでご挨拶申し上げる予定でしたが、急遽欠席となりましたので、代わりまして私からごあいさつ申し上げます。本日は委員改選後、第1回目の社会福祉審議会高齢者福祉分科会に、ご出席いただきまして感謝申し上げます。今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、分科会の委員の皆様におかれましては、各分野にてご尽力いただき、こちらについても改めて感謝申し上げますところでございます。特に医療・介護の事業所では感染対策に大変ご苦労されているなか、サービスを維持していただいていることが、市民の安全、安心な生活につながっているものと認識いたします。

さて、昨今の社会保障費の増大や少子高齢化の進展の中では、持続可能な制度や仕組みが求められており課題も多いのが現状でございます。また、全国的な介護の担い手不足という問題も顕在化しています。飯田市の介護保険料の基準額は、第7期の計画では県下19市で一番高い状況でありました。今期計画ではそこを脱しましたが、依然として高い水準にあります。介護給付費が増えていくことが見込まれるなかで、安定した介護保険事業の運営が求められます。

当分科会で協議いただく介護保険事業計画は高齢者福祉計画と合わせて3ヶ年計画で運営しています。現計画が令和3年度から5年度までとなっており、今年度は次期計画の策定に着手する年となります。様々な課題があるなかで、今後3年間の飯田市の介護保険事業をどのように運営していくのがよいか、議論をお願いしたいと思います。

委員の皆様には、これから任期中の3年間、お世話になりますことを改めてお願いし、あいさつとさせていただきます。以上でございます。

### 3 事務局自己紹介

### 4 社会福祉審議会高齢者福祉分科会について

#### (1) 委員自己紹介

#### (2) 飯田市社会福祉審議会の概要について

質疑応答なし

#### (3) 正副会長及び本部会委員の選出について

会長：幸森信良委員

副会長：田中光子委員

本部会委員：多田雅幸委員

#### (4) 会長・副会長挨拶

(会長)

2000年の介護保険事業が始まって以来22年間介護事業をさせていただいております。その間に

介護保険制度もいろいろ変わってまいりましたが、なんとか事業をやっているのも市をはじめご利用者様、皆さんのおかげだと思って、感謝しておりますので、少しでも恩返しできるように頑張っていきたいと思っておりますので、ご協力の程、よろしく申し上げます。

(副会長)

私も会長と同様に20年ほど介護の仕事に携わっております。取り巻く環境が変わってきたなど感じております。2024年には介護報酬の改定が始まります。今回、新聞・ネット等で見るとかなり利用者負担になるものが提案されております。2割にしようとか、ケアマネさんのケアプランを有償にしようとか、それに伴って医療保険の方も同じ年に改定があるようです。とても大変な時に、もう始まっているわけですが、私共が審議会でやっていかなければいけないんだなとつくづく感じました。ご覧のとおり会長も私も既に前期高齢者にもうすぐ足を突っ込む年かと思っておりますので、どうか皆様のお知恵をお借りしながら、協力を仰ぎながら、3年間務めてまいりたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

(5) 飯田市地域密着型サービス運営委員及び飯田市地域包括支援センター運営協議会委員の選出について

事務局案のとおり

## 5 報告・協議事項

第8期介護保険事業計画の進捗状況について

会長：介護予防サービス事業費の令和3年度実績の対推計比の増減率が84.73%と、計画値に対して2割から1割5分も落ちているが、原因は掴んでおられるか。

事務局：介護予防サービス事業費は要支援の方を対象にしたサービスであり、全てのサービスではなくサービスも限定されている。介護予防サービスについて実績が落ちているのご指摘ですが、総合事業が始まり要支援の認定を受けずに事業対象者としてサービスを利用できたり、介護予防が総合事業へ移行していく方向性があり、数字が減ってきた。なぜ2割近くも減少したかという検証はできていない。

会長：今後もそのような傾向で少なくなっていくと考えていいでしょうか。

事務局：総合事業が受け皿になって、介護予防により力を入れていくと飯田市も方向性を出していますので、元気なうちにサービスを使うことで重度化しないように、元気な高齢者になっていただけるよう取り組んでまいります。

A委員：現場で働く中で気になったが、新型コロナの影響は事業費に影響があったか。何か把握しているとか、話に聞いているとかあるか。

事務局：明確に統計を取ってとか、事業所で数字を積み上げたわけではないが、全体的な傾向の中で通所系施設とか短期入所とかに介護サービスの利用控えはあったのかなと思われる。全体的な事業費が推計値よりも減っている。そういったところは介護予防に力を入れてきたということが一つあるが、それ以外で令和2年度から3年度は、コロナ蔓延期に緊急事態宣言等出された時には、「ちょっとやめておこうかな」という動きがあったのではないかと、これらの

数字を見ながら推測しているところです。なので、訪問系のサービスは令和2年度と3年度を比較したときに増えているが、通所系のサービスについては比較的減っている状況。出歩くのを控えられて、代わりに来てもらった方がいいかなという動きが、飯田においても金額的にも影響が出ているのではないかと推測される。

6 連絡事項

質疑応答なし

7 その他

質疑応答なし

8 閉会